

宝石サンゴの仲間・フトヤギ（花虫綱・八放サンゴ類）の成長

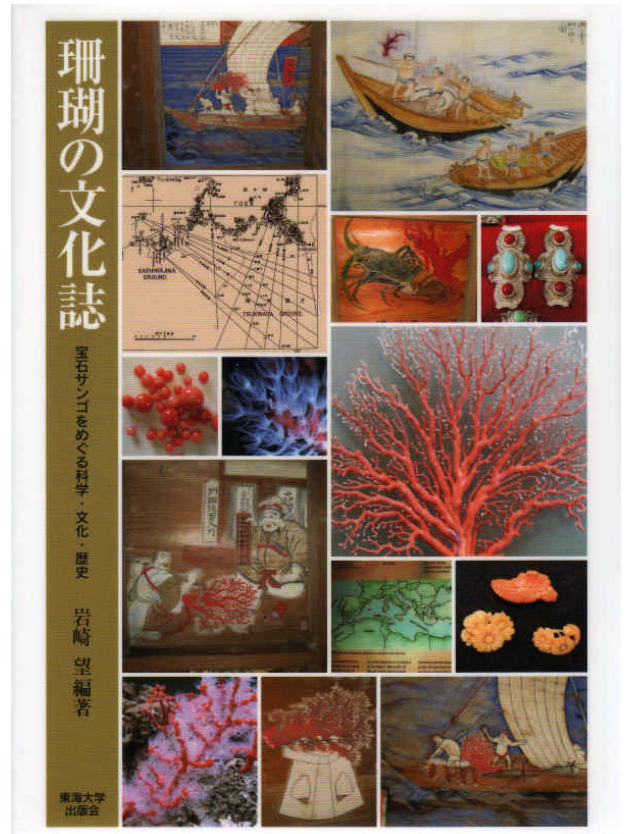
夏梅 晃一

当会の20周年記念誌の「私と自然」で紹介した、若狭湾国定公園三方海中公園地区にかつて生息していたフトヤギの成長。約20年間の成長量を写真で紹介しましたが、イメージだけで、具体的に枝が何cm伸び、太さが何mm太くなったかという成長量を推定することはできませんでした。

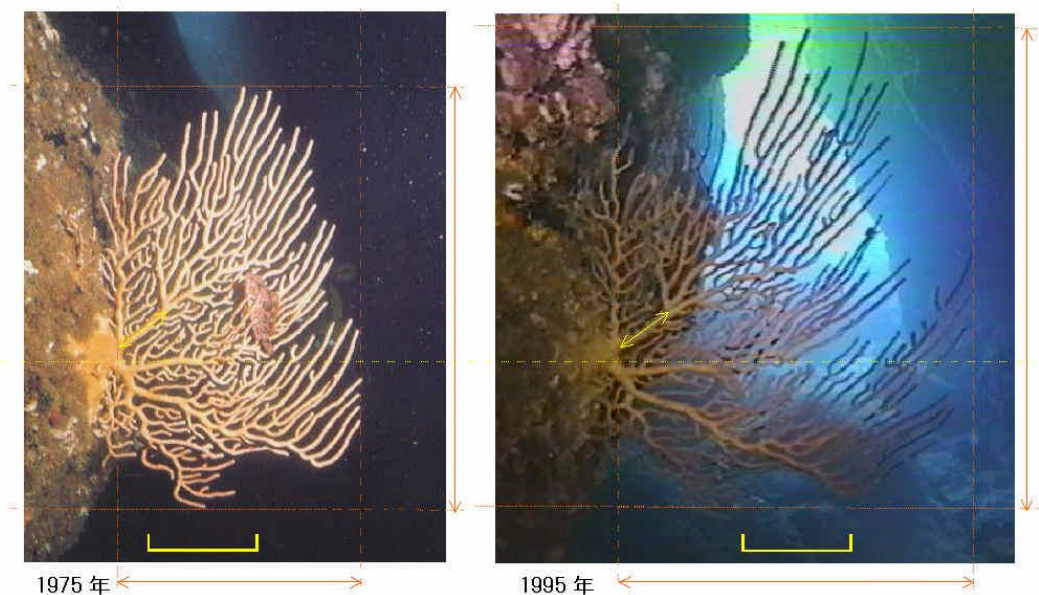
八放サンゴ類の成長について、何か参考になる資料がないものかと以前から探していたところ、昨年末、東海大学出版会から「珊瑚の文化誌 宝石サンゴをめぐる科学・文化・歴史 岩崎望編著」が出版されました。

宝石サンゴについては、20年ぐらい前に、新田次郎の小説「珊瑚」を読み、宝石サンゴ漁に興味を抱いたものですが、「珊瑚の文化誌」には、宝石サンゴの一般的な科学的知見だけでなく、現場での観察や科学的に推定した結果に基づく、具体的な成長速度のデータが示されています。成長速度を把握することは、サンゴ漁の立場からは、貴重なサンゴを採りつくさないよう、資源管理のために大切なことです。

データの一部を紹介すると、ベニサンゴ（仏・伊沖の生息水深25~35m）・アカサンゴ（高知・五島沖の生息水深100~140m）・モモイロサンゴ（沖縄近海の生息水深200~300m）では、肥大成長速度が0.24~0.62mm/年、伸長成長速度が1.8mm/年となっており、浅海でサンゴ礁を形成する六放サンゴ類に比べると、成長速度が非常に遅いようです。



フトヤギ（刺胞動物門：花虫綱八放サンゴ亜綱）の成長



（図書「日本の海中公園・1975 風土記社発行」の海中写真より）

（夏梅撮影の海中ビデオより）

これらのいわゆる宝石サンゴは、フトヤギと同じ八放サンゴ類ですが、生息水深が非常に深い種類なので、一概にフトヤギの成長速度がこの程度だとは言いきれませんが、三方海中公園地区で生息していたフトヤギの約20年間の成長を写真で見ていると、この程度の成長速度であることが納得できませんか。